

会議録

1. 会議名	平成28年度 第1回出雲市子ども・子育て会議
2. 開催日時	平成28年6月30日（木） 14:00～16:00
3. 開催場所	出雲市役所本庁 3階 庁議室
4. 出席者	<委員> 肥後功一委員（会長）、高橋恵美子委員（副会長）、原 広治委員、寺本淳一委員、宮本 享委員、伊藤芳人委員、錦織可奈子委員、玉木 満委員、羽根田紀幸委員、綿貫 智委員、高橋良介委員、飯塚由美委員、青木敏章委員、廣戸悦子委員、高橋悦子委員、原 成充委員、西 郁郎委員、三成重雄委員（順不同） （欠席：糸原直彦委員、堀江正俊委員） <事務局> 長岡出雲市長、子ども未来部長、子ども未来部次長（兼 子ども政策課長）、教育委員会教育部次長（兼 学校教育課長）、保育幼稚園課長、福祉推進課長、健康増進課長、市民活動支援課長、子ども政策課長補佐、保育幼稚園課長補佐、児童生徒支援課長補佐 ほか
5. 次第	1 開会 2 委嘱ならびに委員の紹介 3 市長あいさつ 4 会長並びに副会長の選任について 5 議事 （1）出雲市子ども・子育て会議について （2）子ども・子育て支援に関する取組状況について （3）子育て支援・少子化対策に関するアンケート調査結果について （4）放課後児童クラブ課題等検討部会（仮称）の設置について （5）その他 6 閉会
6. 議事要旨	以下のとおり
事務局	1 開会 2 委嘱ならびに委員の紹介 【資料】出雲市子ども・子育て会議委員名簿 20名の委員を委嘱

市長	3 市長あいさつ 子ども・子育て支援の新制度がスタートしてから1年が経過した。国の今年度予算では子育て支援の質と量の拡大ということで、約 5,000 億円の予算が確保された。子育て支援の新制度を市町村が中心になって進めるための、地域の子ども・子育て支援事業の拡充や、新しく企業主導型の事業所内保育等が打ち出されたところである。 また県においては、今年度子育てサービスの充実ということで、第1子・第2子の保育料の軽減、待機児童ゼロに向けた支援、病児保育の充実等で、新たに8億7千万円規模の予算が計上された。 本市では子ども・子育て新制度の施行に併せ、平成27年3月に出雲市子ども・子育て支援事業計画（いきいき子どもプラン）を策定した。このプランに沿って、全ての子どもが等しく質の高い保育・教育が受けられるよう、全ての家庭のみなさまが安心して子育てができるよう環境整備を進めているところである。4月からこのプランを積極的に推進する体制を内外ともに示すために、子ども政策課と保育幼稚園課の二つの課で、子ども未来部を新設した。市をあげて子ども・子育てをしっかりと進めていこうという思いである。 昨年度の国勢調査で、県内19市町村の中で本市は唯一僅かではあるが人口が増えた。生まれてくる子どもの数が増えてきている。国が示す基準に基づいての待機児童は少ないが、実際には入りたい保育所に入れないという実態もあり、様々な課題がある。しっかりと対応していきたい。 この会議で審議をお願いしたいことが大きく3つある。 一点目は、出雲市子ども・子育て支援計画（いきいき子どもプラン）の進捗状況の検証・評価、その内容についてのご意見をいただきたい。 二点目は、保育所の定員に関することへの意見である。今年度400人を超える定員増を図ったが、なお入所枠が足りないという状況が続いている。今後の見通しも含めて今の定員のあり方についてご意見をいただきたい。 三点目、計画を進めていく上において特に課題が大きいものについての、集中審議をお願いしたい。放課後児童クラブ事業は対象学年の拡大等もあり、各小学校単位で地元のみなさまの熱心な取り組みによって運営をいただいているが、今のままで良いのかということも含めて、この会議で検討いただきたい。これについては、部会の設置もお願いして集中審議をしていただけたらと思う。 本会議を8月末までに本会も含めて2回開催し、2回目の本会議までに部会を2回開催し意見をまとめていただきたいことをお願いしたい。9月の定
----	---

	例市議会では、みなさまからいただいたご意見等を踏まえて報告しておくべき内容がいくつかあると考えている。新年度に向けて様々な準備を進める上で、どうしてもこういったタイトなスケジュールになる。ご理解をいただきたい。 出雲市の子ども・子育て支援の取り組みが、子ども・子育て支援事業計画に沿って着実に推進できるよう、そして出雲の子どもたちにとって最善の利益が受けられるよう願っている。委員のみなさまのご協力・ご支援をお願いしたい。
事務局	4 会長並びに副会長の選任 会長に肥後功一委員、副会長に高橋恵美子委員を選出
肥後功一会長	肥後会長あいさつ 第1期は子ども・子育て会議が設置され、いきいきこどもプランを作ることが大きな課題であった。市の中でも関係部局が多岐にわたる中でまとめることができた。平成27年度からの計画で今年度が2年目にあたり、本日はその実績を報告いただいて評価をする必要がある。計画は計画通りに進めることだけではなく、目的として計画を進めて効果があったかを検証することが重要と考える。事務局からは計画の進捗状況を報告いただき、委員のみなさまには、いきいきこどもプランのユーザーである市民に行き届いているか、子どもを産み育てたいという気持ちにつながっているかという観点からそれぞれの立場で評価いただきたい。
高橋恵美子副会長	高橋副会長あいさつ 大学では小児看護学を専門としており、出雲市の子どもたちのために会議に加われることを大変光栄に思う。半数以上の委員のみなさまが昨年度から継続ということで色々と教えていただきながら一緒に頑張っていきたいと思うのでよろしくお願い申しあげる。
事務局	5 議事 出雲市子ども・子育て会議条例第6条第1項に基づき、肥後会長を議長に選出
肥後功一会長	この会議がどういう位置づけにあるのか、本会議の目的はということかについて、規則等の説明をお願いする。

事務局	(1) 出雲市子ども・子育て会議について 【資料 1】の説明 会議設置の趣旨と開催経過、今後の審議等について説明
肥後功一会長	この会議の役割等について説明があったが、何かこの点について質問があるか。
各委員	(質問・意見なし)
事務局	(2) 子ども・子育て支援に関する取組状況について 【資料 2-1・2-2、資料 3、資料 4、資料 5】を、出雲いきいきこどもハンドブックに基づき説明
健康増進課	【資料 2-1 A】妊婦健康診査事業について説明 【資料 2-1 B】乳幼児家庭訪問事業、赤ちゃん声かけ訪問について説明
保育幼稚園課	【資料 4】について説明
肥後功一会長	保育所の入所希望者の内、どれくらいが入所枠の中でおさまっているのかが、国をあげて騒ぎになった。定員に関してだけはここでご意見・ご質問を受けたいと思うがいかがか。 平成 29 年度の定員の設定にあたっては、中間見直しを次年度に行う予定であるので、今、具体的に増減についてのプランを持っているという訳ではないということで良いか。
保育幼稚園課	そのとおりである。
肥後功一会長	今、国の方で少しずつ進めている事業として企業主導型保育事業がある。市が直接関与するものではなく、公益財団法人児童育成協会が助成していくという形の保育施設である。出雲市は今の計画期間の中で、そういった方法も少し見極めながら来年度見直しを行っていこうと考えられている。
寺本淳一委員	保育所から保育士確保に苦慮しているという話を聞くが、国が進める企業型保育事業が本格的に始まれば保育士の取り扱いになると思う。市はこの事業に関与しないとのことだが、保育士確保の調整はどの機関が行うのか。

保育幼稚園課	保育士確保は、それぞれの保育所が行われるべきことで調整はできないが、保育士の数の確保のために、県に保育士養成セミナーの開催を要望している。潜在保育士への情報発信・確保については、市は関与しようと考えている。
肥後功一会長	人材確保について、市は企業主導型保育事業との調整はできない。市は全体的な人材発掘を図っていくことで関与するということによろしいか。
保育幼稚園課	その方向で関与していきたい。
宮本享委員	市は企業主導型保育事業に関与しないとのことだが、認可保育所の定数を検討するには、企業主導型保育事業の利用児童数くらいは把握する必要があると思う。
肥後功一会長	国の事業説明書には設置や利用に関して、市町村の関与は必要ないと書いてある。だからといって、全く関与しないのはいかがという質問だが、事務局の考えはどうか。
保育幼稚園課	企業主導型保育事業は県への届出が必要であり、そこで保育の質・量に関して確認が入る。県から市へは情報提供はある。それ以上の対応は難しい。
宮本享委員	企業を運営する側とすれば、福利厚生の実施は大事な要素。企業内に保育施設があれば働きやすさにつながる。市としての関与を期待する。
肥後功一会長	企業内の保育施設を卒園すれば、その後小学校に入学するので、保育の内容が教育の質に関係してくる。市としても情報収集等に努められたい。松江市では研修への参加を促している例もある。
青木敏章委員	市内には総合病院等に企業内保育施設が既に設置されており、その企業内保育施設から、直接小学校に入る児童もいる。保幼小連携を図る上でも、利用児童の情報は把握しておく必要があると思う。
子ども政策課	要保護児童対策地域協議会では、子どもの所属の把握のために、今年度から院内保育（企業内保育施設）や認可外保育施設に訪問をして情報把握に努めている。また、今年度から年中児発達相談を行い全ての年中児の保護者に

	アンケート調査を行ううえで、院内保育施設にも協力をいただくこととなった。 連携を利用者サイドから持っていこうと思っている。
西郁郎委員	定員の問題については、平成 28 年度から出雲市の定員総枠を増やしているので、弾力化を積極的に使えば解消できるのではないかと考えている。ただ定員内スタートという考えを取り払わないと待機児童対策にはならないと考えている。
肥後功一会長	計画策定時には子どもが大幅に増えるということではないので、弾力化の中で考えていけば良いと判断してきた。人口の動向を注視しながら、定数に関しては慎重に検討する必要がある。数の問題をあまり性急に対応すると、逆に質の問題はどうかという意見があった。次年度の定数については、少し弾力化を含めて検討したい。
子ども政策課	【資料 2-1 D】子育て支援センター事業の充実について説明 【資料 2-1 E】ファミリーサポートセンター事業の充実について説明
保育幼稚園課	【資料 2-1 C】保育所、幼稚園、認定子ども園の保育料軽減対策について説明 【資料 2-1 F・G・H】一時保育事業他の特別保育事業の継続・充実について説明
肥後功一会長	子ども・子育て事業計画においては、平成 28 年度は幼稚園における夏休みを含めた預かり保育を増やしていくことを想定していた訳ではない。アンケート調査や実績に基づいた大きな変更ということなので、ご審議いただかないといけない。
原成充委員	様々な数字がたくさん出てきて理解しにくい。初めて参加された委員のみなさまは、今のスピードの説明で理解されているのだろうか。
肥後功一会長	非常に大切な、基本的なご指摘である。 少し丁寧に説明していく必要があるのではないかとご指摘だと思う。第 2 回目の会議において、計画値と実績値に大きなズレがあって、変更する必要があるというものについては、少し資料を足して丁寧に説明をしていただ

	きたい。
保育幼稚園課	ご指摘ありがとうございます。 今回の会議で、幼稚園の一時預かり事業について、実績・アンケート等、制度内容を含めた資料を用意して、改めて説明をさせていただきたい。
子ども政策課	【資料 2-1 I】子育て短期支援事業について説明 【資料 2-1 J】放課後児童クラブ事業について説明
市民活動支援課	【資料 2-1 K】放課後子ども教室推進事業について説明
肥後功一会長	これから説明いただく資料 2-2 の 4 事業は、いきいきハンドブックの外側にある、次世代計画と少し連携しながら出雲市が独自に取り組んでいる大切な事業である。
保育幼稚園課	【資料 2-2 L】公開保育・合同研修の実施について説明 【資料 2-2 M】出雲市の幼稚園のあり方について説明
肥後功一会長	幼稚園をどうするかという問題は非常に重要で、特に出雲市の場合は公立の幼稚園がある。それをどうするかということは、かなり直接に公立の小学校の教育と結びついてくる。国は学習指導要領の改訂を行っている。幼稚園教育の要領も改訂される。それに併せて保育所の指針も平成 30 年度から新しい指針に変わる。一言でいうと教育重視に保育所指針が変わるということである。幼稚園教育は、利用者が減っていく側面と、地域の教育を担っていく重要な就学前の教育施設であるという二つの面をどう考えていくかが課題である。
福祉推進課	【資料 2-2 N】出雲市障がい福祉計画に基づく事業の推進について説明
子ども政策課	【資料 2-2 O、資料 3】「年中児発達相談事業」と「円滑な就学に向けた情報連携」の全市展開について説明
肥後功一会長	情報が小中高と引き継がれていくということを国の方で考えなければならない。そのことを教育施策として一貫させていく必要があると思う。 年中児発達相談事業の目的に対してこのアンケートの名前はこれで適切

子ども政策課	か。 基本的に子ども・子育てアンケートは、保護者に子どもの姿や子育ての振り返りの機会としていただくためのものであり、このアンケートを基に、年中児発達相談事業と円滑な就学に向けた情報連携を図ろうとするものである。 アンケートの名称については、市がこれまで実施してきた年中児発達相談事業において、「発達」に特化したアンケートでは保護者の気持ちに寄り添いにくかった経緯があり、そのため平成 27 年度からは、親支援・子育て支援の中に発達の支援を必要とする子どもや保護者への支援を位置づけたアンケートとして、子ども・子育てアンケートとしたところである。
肥後功一会長	子ども・子育てアンケートという名称でありながら発達支援を大きな目的とすることは、何でもないアンケートであると言っておいて、中身は発達に課題のある子を見つけるためのアンケートだというように見られてしまう。そういう意味ではなく早期からの支援をするということが目的であるのは分かるが、そこのあたりはどう考えるのか。
子ども政策課	平成 25 年度から平成 26 年度までの年中児発達相談事業については、まずは発達相談に係るアンケートをとって後は巡回相談等で進めてきたが、発達相談という趣旨でのアンケートでは保護者にご理解いただきにくいことがあった。平成 27 年度は事業の趣旨を子育て支援という形で進めたところ、保護者の理解や支持も 9 割を超え、アンケートの回収率も 100%となった。この成果を受けて、今年度も保護者・各園からご理解をいただき、これを一つの手法として進めていきたいと思っている。
羽根田紀幸委員	アンケートの名前ややり方を変えて実施したことで回収率が 100%になったということは、今までのアンケートであがってこなかったというケースが、たくさんあがってきたということか。
子ども未来部長	今回の事業は、発達の支援が必要と思われる子どもに対する対応を目的とすることのみではなく、すべての子どもを良い形で就学させたいということも大きな目的としている。今回のポイントは小学校との連携でもある。なかなか幼稚園・保育所等から小学校に情報が伝わりかねるという状況があり、今回のアンケートは、就学予定の小学校名を記入いただくこととした。この

肥後功一会長	アンケートには個人情報保護法の関係もあり、幼稚園・保育所等、出雲市、出雲市教育委員会及び小学校がアンケートを共有するということをきちんと明記させていただいた。小学校から各幼稚園・保育所等に出かけていき、全ての子どもを小学校の先生が把握する。そうすることで子どもの状況を全て分かった上で小学校は新入学生を迎えるという流れにしている。 もし幼稚園・保育所等で少し気になる状況がある場合は、小学校の先生にそのことを伝え、適切に対応していただけるようにするというものである。 それは分かっているが、それを子ども・子育てアンケートというのか。就学支援アンケートではないのか。子ども・子育てアンケートは広いイメージがある。発達に問題のある子を見つけるという意味ではなく、すべての子どもの就学支援を広く・スムーズに行っていくという目的の趣旨は分かる。逆に言えば、今は発達障害者支援法等では、障がいのある子どもを医療がを見つけ出して、診断して手帳を発行してという考え方ではなくて、障がいというのはもう少し広い、特にインクルーシブ教育の流れでいくと、ある程度周りの環境との関係で障がいがおこる（障がいの社会モデル）というもの。周囲の理解や周囲との関係づくりの在り方によっては、子どもの状態は同じでも支援の必要性や度合いは変化する。 今後はそうしたことも地域の方にご理解いただく必要があると思う。就学後の円滑な学校生活のために、予め多様な支援の必要性を把握し、的確な教育的支援につなげていきたいという市の本当の意向をきちんと説明して、取組を進めてはどうか。 子ども・子育てアンケートという名前について、市の意向を明確にする名前に変更するなど、ご検討いただけたらと思う。意見の一つである。
羽根田紀幸委員	先日、出雲市の小児科医が集まって、このアンケートのことについて議論を交わした。発達障がいの疑いのある子どもは、今後の環境の中で大きく成長する可能性があり、年中児期という一時点のアンケートを基に、子どもの発達障がいを見つけようとするものであるなら、少し心配であるという意見があった。 子どもの見立てについては、普段から長い時間子どもの姿を見ている保育所の先生たちの意見が参考になると思う。そうすると保育所の先生の負担が増えるから、保育所の定員の問題も関わってくる。保育所の先生の数をもっと増やさないと、この事業への対応はできないのではないかという意見が多くあった。

肥後功一会長	我々としては、総論賛成だが各論としては保育所の先生たちの協力が得られない限り大変難しいという意見が多くあった。支援だということで全ての子どもを対象にするなら、先ほど述べたような問題が出てくると思う。 アンケートを実施することの趣旨はよく分かるし、接続はすごく重要なことである。障がいという問題を情報共有することは大切である。市民の方に障がいそのものに対する理解をきちんと得られるような形で進められたら良いのではないかと思う。 今までのところについて、ほかにご意見はないか。
原広治委員	資料 2-1 B 乳幼児家庭訪問については、出生児の 98.9%、また、赤ちゃん声かけ訪問については、99.4%という訪問率となっている。会えなかったお子さんに関しては、その後の乳幼児健診の時にきちんと会って確認されるという説明であった。当初の訪問時に会えなかった理由というのは、その後の乳幼児健診等で会うのは大切だが、訪問された時に何か気になる様子はなかったか。その関連性はないか教えていただきたい。
肥後功一会長	ファーストコンタクトが上手くいかなかった事例について、その後の検証についてはいかがかという質問である。
健康増進課	乳幼児訪問に関しては、会えなかったお子さんについては大体生後 4 ヶ月まででなるべく早期に保健師が訪問するようにしている。中には県内で里帰りをされて会えない人や、予定日より随分早く出産されて長期入院されていて会えない人がおられる。 乳幼児健診で会えない人で、気になる人は何名かおられるが、地区担当の保健師が継続して関わるようにしている。
肥後功一会長	会えなかった人について後からフォローした時に、ある問題があったために会えなかったのではないかという質問だったが、そこは大丈夫か。全く発達上等の問題ではなくただ都合が折り合わず、会えなかったということではなかったのか。
健康増進課	様々な形でフォローをしているお子さんはいる。 平成 27 年度については、該当はなかった。平成 26 年度以前で気になるお子さんがおられて、お母さんの心の問題等でなかなか会えなかったという事

	例はあった。
肥後功一会長	特に産後うつが疑われるというところの質問だったかと思う。 他にご質問・ご意見はないか。
各委員	(質問・意見なし)
肥後功一会長	子ども・子育て支援に関する取組状況について、ざっと説明をいただいたが、少し市の方で整理をしていただきたい。本日は時間が少し足りなかったかと思う。ここは重点的に理解をいただいて進めないといけないと思うところは、次回に少し回させていただいて再度説明をいただくということで良いか。
各委員	了承
肥後功一会長	(3) 子育て支援・少子化対策に関するアンケート調査結果について これについては調査が終わったものの報告であるので、時間の都合もあり、次回に回させていただきたいと思う。リクエストであるが、出雲市が他に比べて高いのか低いのか分からないので、全国の状況や同規模の市の調査と比較して、データ分析のうえ砕いて説明をいただければと思う。
肥後功一会長	(4) 放課後児童クラブ課題等検討部会（仮称）について 放課後児童クラブについての課題を専門的に検討するための部会設置の提案である。
事務局	【資料 7】の説明
肥後功一会長	短時間で児童クラブの現状の課題について、市の方で整理いただいた。
三成重雄委員	先ほど説明があったとおり非常に困った面が出てきている。ニーズに応えることは非常に大切なことだと思うが、全てのニーズに応えていくと本当に子どもが良い子に育つのか。いわゆる生きる力を持った子どもたちが育っていくのか。将来的な見通しがある程度必要であると言われる。保護者のニーズに応えて子どもをどんどん預かっていって、親が子どもを見る時間が本当にわずかになってきている。昔と全く違ってきている。突き詰めていくと、

	どういう形で運営していくことが大切なのかというところに行き着くのではないかと思う。今後しっかりと論議して進めなければと思う。
肥後功一会長	それぞれの立場の方のご意見を伺うべきだが、重要な課題であるということ認識していただいて、この部会設置を認めていただけるか。
全委員	承認
肥後功一会長	部会を設置するという形で進めたいが、委員の選定をしなければならないが、事務局で事前に案を作成しているか。
事務局	部会委員名簿（案）を配布
肥後功一会長	本会議委員から8名の方にお出かけいただき、本会議の外から専門委員として、出雲市児童クラブ運営委員会委員長会理事会から吾郷さん、ジョブ・ステーション出雲から森山さん、いずもファミリーサポートセンター センター長の大国さん、の3名の委員にお出かけいただき、合計11名ということによろしいか。
全委員	承認
肥後功一会長	これで部会を設置して、11名で審議していきたいと思う。 審議スケジュールが配られているが、事務局から説明をお願いします。
事務局	【資料】放課後児童クラブ課題等検討部会の審議スケジュールについて説明
肥後功一会長	2回の部会でまとめるという大胆なスケジュールである。 詳細な資料を用意いただきたいと思う。
事務局	(5) その他 ①本日の会議録については、会長の確認を受けたうえで、委員へ配布するとともに市ホームページで公開する。 ②第2回出雲市子ども・子育て会議を8月下旬に開催する予定である。本日配布している日程調整表の記入・提出をお願いします。 ③現在、市に登録のない委員については、債権者登録申請とマイナンバーの

肥後功一会長	届出をお願いする。 委員のみなさまに十分な発言をいただけなかったことに心からお詫び申しあげる。次回の日程調整等にご協力をお願いしたい。20名の委員全員の出席は難しいかもしれないが、事務局には鋭意調整いただき、できるだけ多くの委員が出席できる日を調整いただきたい。 会長の役を終え、事務局へ進行を返す。
子ども未来部長	6 閉会 事業内容、また説明が分かりにくい面があったことお詫び申しあげる。 次回については、本日残ったものと保育所の定員について、また放課後児童クラブの課題への取り組みについて、これらが主な議題になると思っているが、資料の作成について思うことが沢山あったので、十分精査した資料を作成して、短時間で説明が出来るような方向に持っていきたいと思っている。 冒頭で市長がお願いしたように、非常にタイトなスケジュールの中で審議をお願いしている。何とか8月末の会議では良い形でご意見をいただいて、まとめができるようにと考えているので、8月末の会議にご参集いただき、協力をお願い申しあげる。